

# A Talking Knowledge of Rotary

地区研修リーダー **三木 明** (姫路)

## ロータリー会員から真のロータリアンへの進化

ナサニエル・ホーソーン著の「大いなる岩の顔」という物語があります。アメリカ原住民に伝えられた伝説です。ある村から見える巨大な岩を組み合わせた荘重な人間の容貌を形造った広い谷間についての話です。

その伝説によると、谷間にあるその村に、一人の男の子が生まれ、彼が成人すると容貌が「大いなる岩の顔」に似てきて、その時代でもっとも偉大で、高貴な人になるという運命を持っているというものでした。

アーネストという少年が、その伝説を深く信じていました。アーネストは、日夜その「大いなる岩の顔」を眺め、何かを感じ取っていました。

その岩は、彼の心を育み、師となり、考えを刺激する存在でありました。

やがて、成人したアーネストは、生まれ故郷で教師になり、彼の語る謙虚で真実の言葉によって、その村に住む人々だけでなく、多くの人々の人生を形成していったのです。

ある時、一人の詩人が彼のもとを訪れ、一日中話し合いました。その岩の顔が荘重で、慈悲深く、気高い愛に満ち溢れているというものでした。

アーネストが語る力強い言葉は、まさに「大いなる岩の顔」から学び、彼自身の心から発する言葉になっていたのです。

アーネスト自身が、「大いなる岩の顔」そのものになっていたのです。

人の生き様と考え方は、その影響を間違いなくその容貌に刻み込みます。私たちは、ロータリーの中でアーネストが「大いなる岩の顔」から学んだように育って行くのです。

ロータリアンは、多面的なロータリーを熟視し、熟考し、他の人々には見えないものを探し出さなければなりません。伝説にあるアーネストのように、ロータリアンたちは、彼らの精神が映し出された容貌そのものになるまで育たなければなりません。

私たちは、皆でロータリーをじっと見つめましょう。そして、「この人たちこそロータリーの真の姿だ」と言われるように、ロータリーの名によりふさわしい人になるのです。

さて、今回の規定審議会で、各クラブの柔軟性が大きく認められました。国際ロータリーが、クラブに対して上意下達ではないかと言われて久しいのですが、それぞれのロータリアン、クラブに主体性を大きく認める決定がなされたのです。このことは、ロータリアン自身が襟を正し、よりよきロータリーを目指すことが求められているのです。ロータリーの理念を学び、それを自らの判断で行動に移すことがより大切になってきました。ロータリーは、私たちの考え次第で良くも悪くもなるということです。まさに、自己責任でロータリーに関わっていかねばなりません。

最近まで、ロータリーは自らを「人道的奉仕団体」として位置づけ、会員の重要性を十分強調していませんでした。しかし、ロータリーがほかと違う特別な団体である理由は、その会員組織にあります。ロータリーは、「奉仕活動を行っている会員からなる団体」だということなのです。本来のロータリーの在り方を再確認する良い機会であると思います。

1年間拙い文章をお読みくださり、ありがとうございました。また、どこかでお目にかかりましょう。丸尾研一ガバナー、今田学志代表幹事をはじめ、多くの方々に感謝を込めて。